



中央通りの道路拡幅、無電柱化が計画されています

中心市街地活性化事業について

質問(井上泰弘議員) 中心市街地活性化事業について伺います。

答弁(市長) 中心市街地の活性化を図るため、にぎわいの創出、町なか居住の推進、商業の振興を基本とし、高齢者が不便を感じることなく生活ができる居住空間の確保はもとより、街なかに住むすべての世代の方々が安全で快適な生活ができるよう中心市街地のインフラ整備など、ハード事業やソフト事業を交えてより高い事業効果が得られるよう事業を

進めているところであります。具体的には、栃木県が事業主体となっており、都市計画道路三・四・二号西那須野線、通称中央通りの拡幅、無電柱化事業においては、道路幅員を現在の十メートルから十六メートルに拡幅するとともに、歩道幅員を三・五メートルとし、加えて電線類を地中に埋める無電柱化を進める計画であります。既に平成二十一年度から用地買収等に入っているとされており、この事業に歩調を合わせな

がら中央通り地区再開発事業、多目的公園整備事業、市街地回遊路整備事業などに取り組み、中心市街地の活性化に寄与することとなっており、本市の場合、中心市街地活性化基本計画について国の認定を受けておりますことから、通常の補助率より有利な条件で国庫補助を受けられますので、この機会を有効に活用してまいりたいと考えております。

なお、事業実施に際しましては公約に従い、関係者や市民からの声を考慮し、関係機関の意見を聞きながら進めてまいりたいと考えております。

医学部新設に向けた取り組みについて

質問(小西久美子議員) 国際医療福祉大学の医学部新設への市の取り組みについて伺います。

答弁(市長) 国際医療福祉大学の医学部の設置に向け、学内に設置基準準備委員会を設け、準備していることは承知しております。医学部の設置は、昭和五十四年の琉球大学の設置許可以来三十年以上新設はありませんが、国は地方の医師不足の解消の目的から医学部新設の審査再開に向け進

むものと思われ、新聞報道等により、国際医療福祉大学の医学部定員は百二十人程度としており、設置場所は大田原市のほかに複数の候補地を検討していること、国が申請の窓口を開いたという状況ではまだありませんが、市としては、小西議員のご指摘のとおり、医学部はぜひとも大田原市に設置をしていただきたいと考えております。栃木県とも連絡を密にしながら可能な限り支援策を

検討していくつもりであります。再質問(小西久美子議員) ぜひとも土地などを無償で提供するぐらゐの熱い思いでぜひ誘致をしていただきたいと思うのですが。

答弁(市長) 限られた財源、それと費用対効果、それとあわせて将来還元率、そういったものはすべての事業の見直しといえますが、検討をする上においての基礎的な判断材料にしていきたいと思っております。ただ、熱意は前市長に負けないように頑張っており、誘致していきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。



医学部の設置が望まれる国際医療福祉大学